

- 大野泰雄：“新しい薬学事典”，マイクロドーズ臨床試験，安全性薬理試験，トキシコキネティクス，ICH，笠原忠，木津純子，諏訪俊男編，(株)朝倉書店，東京，pp.331-9 (2012)
- Tanabe S, Jee SH: “Latest Research into Quality Control”, 20. The Investigation of Gene Regulation and Variation in Human Cancers and Other Diseases, ed., Dr. Akyar I, InTech, Croatia, pp.435-67 (2012)
- 四方田千佳子：“医薬品の生物学的同等性試験－ガイドライン対応－”，(株)じほう，東京，pp.93-144 (2013)
- 四方田千佳子：“(2012年改正ガイドラインをふまえた)生物学的同等性試験”，(株)情報機構，東京，pp.43-55, pp.230-41 (2012)
- 四方田千佳子：“今日のジェネリック医薬品2012”，(株)南江堂，東京，pp.7-12 (2012)
- 坂本知昭：“グローバルGMPへの対応と品質保証”，(株)情報機構，東京，pp.1-8 (2012)
- 小出達夫：“世界への薬事申請書の書き方 成功へのバイブル ～医薬品・医療機器・診断薬”，第5部 医薬品の国際開発・薬事対応を成功させるポイント 第8章 特に留意すべきICH関連ガイドラインの重要事項 2節 ICH Q8と品質保証の動き，(株)技術情報協会，東京，pp.785-8 (2012)
- 加藤くみ子：“DDS製剤の開発・評価と実用化手法”，第12章 DDSの規制・薬事と対応の留意点 第1節 国内外のDDS製剤の開発に関する規制の動向，(株)技術情報協会，東京，pp.531-5 (2013)
- 新見伸吾，橋井則貴，石井明子，川崎ナナ：“抗体医薬品の開発と市場”，第7章 抗体医薬品の特性・品質などの評価，(株)シーエムシー出版，東京，pp.92-132 (2012)
- 新見伸吾：“バイオ／抗体医薬品の開発・製造プロセス－開発・解析・毒性・臨床・申請・製造・特許・市場－”，第2章 バイオ／抗体医薬品の毒性・薬物動態試験 第2節 免疫原性評価のポイント，(株)情報機構，東京，pp.38-58 (2012)
- 川崎ナナ：“新機能抗体開発ハンドブック”，浜窪隆雄，津本浩平監修，(株)エヌ・ティー・エス，東京，pp.553-60 (2012)
- 橋井則貴，川崎ナナ：“バイオ（抗体）医薬品における不純物／凝集の評価・試験と免疫原性，ウイルス安全性への対応”，第6章 液体クロマトグラフィー／質量分析によるバイオ医薬品由来不純物の解析，吉森孝行監修，サイエンス&テクノロジー(株)，東京，pp.150-68 (2012)
- 新見伸吾：“バイオ（抗体）医薬品における不純物／凝集の評価・試験と免疫原性，ウイルス安全性への対応”，第10章 バイオ医薬品の凝集体とHCPの免疫原性，吉森孝行監修，サイエンス&テクノロジー(株)，東京，pp.245-69 (2012)
- 遊佐敬介：“バイオ（抗体）医薬品における不純物／凝集の評価・試験と免疫原性，ウイルス安全性への対応”，第11章 バイオ医薬品のウイルス安全性，吉森孝行監修，サイエンス&テクノロジー(株)，東京，pp.270-9 (2012)
- 石井明子，鈴木琢雄，多田稔：“次世代抗体医薬開発に向けた抗体工学の最前線”，第6章 3節 FcRn結合性を利用した次世代抗体医薬品の体内動態制御，熊谷泉監修，(株)シーエムシー出版，東京，pp.102-15 (2012)
- 原園景，川崎ナナ：“～欧・米・中，日本を中心とした～世界への薬事申請書の書き方 成功へのバイブル”，佐藤章弘編集，(株)技術情報協会，東京，pp.919-25 (2012)
- 川崎ナナ（共同執筆）：“医薬品の名前 ステムを知ればクスリがわかる”，宮田直樹編著，(株)じほう，東京，pp.186-219 (2013)
- 内田恵理子：“バイオ医薬品製造の効率化と生産基材の開発”，トランスジェニック動物によるバイオ医薬品生産に関する海外ガイドライン解説，山口照英監修，(株)シーエムシー出版，東京，pp.202-9 (2012)
- 内田恵理子：“希少疾患・難病の診断／治療技術と製品開発”，ゲノム創薬技術・遺伝子治療薬・核酸医薬の開発動向，(株)技術情報協会，東京，pp.95-107 (2012)

- 内田恵理子 (共同執筆)：“医薬品の名前 ステムを知ればクスリがわかる”，宮田直樹編著，(株)じほう，東京，pp.186-219 (2013)
- 安田智，佐藤陽治：“幹細胞技術の標準化－再生医療への期待”，再生医療に対する規制・制度等について：欧米の動向，(一財)日本規格協会，東京，pp.206-14 (2012)
- 安田智，佐藤陽治：“幹細胞医療の実用化技術と産業展望”，安全性評価の総論，造腫瘍性試験の現状と展望，(株)シーエムシー出版，東京，pp.247-55 (2013)
- 草川森士，佐藤陽治：“再生医療製品の許認可と組織工学の新しい試み”，再生医療・細胞治療の規制と開発支援に関する国際比較，(株)シーエムシー出版，東京，pp.20-7 (2012)
- 佐藤陽治，村岡ひとみ：“再生医療分野の関連規制：FDAの動向”，稀少疾患／難病の診断・治療と製品開発，(株)技術情報協会，東京，pp.330-5 (2012)
- 澤田留美：“再生医療製品の許認可と組織工学の新しい試み”，再生医療製品に使用される間葉系幹細胞の安全性評価の実際，岩田博夫，松岡厚子，岸田晶夫監修，(株)シーエムシー出版，東京，pp.28-37 (2012)
- 松岡厚子，澤田留美，加藤玲子：“再生医療製品の許認可と組織工学の新しい試み”，次世代医療機器評価指標作成事業－再生医療分野－，岩田博夫，松岡厚子，岸田晶夫監修，(株)シーエムシー出版，東京，pp.38-46 (2012)
- 薮島由二：“和英対訳 医療機器の製造販売承認申請等に必要となる生物学的安全性評価の基本的考え方について”，第7部 発熱性物質試験，ISO / TC194国内委員会会誌，松岡厚子編集，(株)薬事日報社，東京 (2012)
- 金澤由基子，加藤玲子：“和英対訳 医療機器の製造販売承認申請等に必要となる生物学的安全性評価の基本的考え方について”，第2部 感作性試験，ISO/TC 194国内委員会会誌，松岡厚子編集，(株)薬事日報社，東京，pp.51-79 (2013)
- 穂山浩：“食べ物と健康 食品の安全”，(株)南江堂，東京，pp.215-6 (2012)
- 穂山浩：“管理栄養士講座新版食品衛生学”，(株)建帛社，東京，pp.208-11 (2013)
- 河村葉子：“食べ物と健康 食品の安全”，第2章 食品衛生と法規 A食品の安全とリスクアナリシス，B食品安全基本法と食品衛生法，E食品の国際規格，第9章 食品の器具と容器包装，(株)南光堂，東京，pp.5-7, pp.7-9, pp.16-9, pp.197-203 (2013)
- 小西良子：“食品の腐敗と微生物”，第2章食品における微生物の挙動 5節穀類・豆類とその加工など，(株)幸書房，東京，pp.63-72 (2012)
- 小西良子：“新版 食品衛生学 新版第1刷”，第6章 1カビとマイコトキシン (カビ毒)，西島基弘・山本茂貴編著，(株)建帛社，東京，pp.105-12 (2013)
- 小西良子：“臨床と微生物腸管感染症の最新知見”，寄生虫性腸管感染症 クドア食中毒，フェイヤー住肉胞子虫食中毒，(株)近代出版，東京，pp.173-7 (2013)
- 小西良子：“健康・栄養科学シリーズ食べ物と健康”，第6章 食品中の汚染物質 有菌幸司編集，(株)南江堂，東京，pp.127-30 (2013)
- Hara-Kudo Y, DePaola A: “Pathogenic Vibrios and Food Safety”, In Yi-Cheng Su (Ed.), Detection of Pathogenic Vibrios, Nova Science Publishers, New York, pp.179-210 (2012)
- 大西貴弘：“新版 食品衛生学 新版第1刷”，クドアによる食中毒およびフェイヤー住肉胞子虫食中毒など，西島基弘，山本茂貴編著，(株)建帛社，東京，pp.92-5 (2013)
- 内藤幹彦：“がん増殖と悪性化の分子機構”，宮沢恵二，伊東進編，第3章 アポトーシスのメカニズムとがん細胞におけるアポトーシスの抑制機構，(株)化学同人，京都，pp.42-55 (2012)
- 安達玲子：“新しい薬学事典”，笠原 忠，木津純子，諏訪俊男編，骨の破壊と再生，(株)朝倉書店，東京，pp.85-7 (2012)
- 鹿庭なほ子：“医薬品の生物学的同等性試験”，第3章 実施方法，II 生物学的同等性試験の統計解析，(株)じほう，pp.191-208 (2013)

Kaniwa N, Saito Y: “Dermatotoxicology 8th Ed, Chapter 55 Biomarkers associated with severe cutaneous adverse reactions”, Onforma healthcare, London, pp.431-9 (2012)

平林容子, 井上達: “疾患モデルの作成と利用 がん”, 第5章 造血系 第2節 誘発モデル 第3項 化学発がんモデル, 中村卓郎編集, (株)エル・アイ・シー, 東京, pp.445-59 (2012)

Hirabayashi Y, Inoue T: “Toxicology and Epigenetics”, Prediction of epigenetic and stochastic gene expression profiles of late effects after radiation exposure, ed., Sahu SC, John Wiley & Sons, Ltd., Hoboken, NJ, pp.475-510 (2012)

関野祐子: “リップンコット イラストレイテッド神経科学”, 第20章辺縁系 白尾智明監訳, 丸善(株), 東京, pp.389-408 (2013)

Kanda Y: “Role of Cancer Stem Cells in Cancer Biology and Therapy”, 1. Cancer Stem Cells - Fact or Fiction?, eds., Dittmar T, Zänker KS, CRC Press, New Hampshire, pp.1-22 (2013)

Kanda Y: “Clinical Flow Cytometry – Emerging Applications”, 6. Isolation and characterization of cancer stem cells using flow cytometry, ed., Schmid I, InTech, Rijeka, pp.107-24 (2012)

Ishida S: “Horizons in Cancer Research”, 50. The Effects of Cytoskeletal Structure Changes induced by Docetaxel on Gene Expressions.: A View from Different Point of Docetaxel Functions., eds., Watanabe HS, Nova Scientific Publishers, Inc., New York, pp.101-19 (2012)

小島肇夫: “REACH, GHSなどの各種規制”, 世界の化学品規制・ルールの解釈とその違反回避のための実務, (株)技術情報協会, 東京, pp.289-93 (2012)

塚本徹哉, 豊田武士, 高須伸二, 立松正衛: “〈seriesモデル動物利用マニュアル〉疾患モデルの作製と利用ーがん”, 胃*Helicobacter pylori*, 中村卓郎編集, (株)エル・アイ・シー, 東京, pp.264-79 (2012)